

## 旧街道ウォーク344★古代東海道[32] [古代東海道 2008-09 その 11]「我孫子～布佐」活動報告

【日 時】2009年2月28日（土）11:00～17:20 曇り一時晴

【コース】我孫子駅（けやきプラザ）→ 高野山＜昼食＞ → 東我孫子（一里塚）→ 県立湖北高校（日秀西遺跡、相馬郡衙推定地）→ 日秀（将門神社、鎌倉道）→ 新木（葦不合神社）→ 布佐（一里塚跡）→ 栄橋（利根川堤防）→ 布佐駅（12km）

【参加者】○梶川義実、大竹亮、片桐拓朗、加藤栄子、北橋伸一、児山文一、恒川磯雄、長澤純一、△古里実、松野栄明（10名）（○は主催者、△は部分参加）

### 【概況説明】

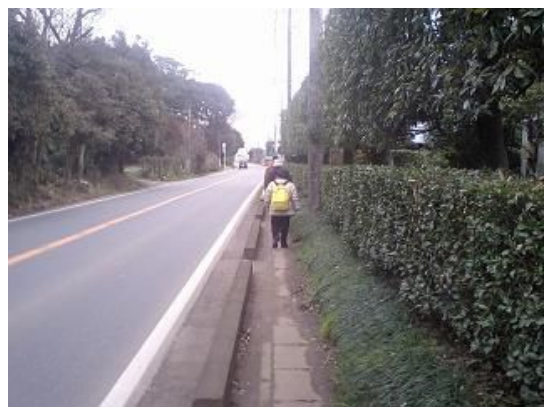
この日は、寒さはそれほどでもない曇りがちの天気でした。まず、我孫子駅前の「けやきプラザ」ビル展望台へ登り、付近の景観を一望しました。その後、前回終着地の八坂神社から旧水戸街道を進みます。我孫子宿本陣跡、道標を見ながら高野山付近で昼食休憩をとりました。その先、我孫子中学校敷地内の高野山1号墳石室を見学し、幹線道路をはずれて水戸街道一里塚へ。さらにその先、湖北地区の天照神社へ立ち寄り、中里庚申堂を見たのちに湖北駅の先で日秀西遺跡（相馬郡衙推定地）にしばし見とれました。続いて将門神社へ立ち寄り、ここから手賀沼干拓地を見下ろしたあと、畑の中の古道（鎌倉道）を通り抜け、葦不合神社へ詣でました。ここからは交通量の多い幹線道路を進み、台地から坂を下りたところが利根川堤防でした。

### 【評価結果】

古代官道らしさについては、細長い台地上の1本道ではあるものの、短絡性を実感しにくい部分もあったためか、平均的な評価となりました。沿道風景については、旧手賀沼の眺めや沿道の農家、生垣を挙げた人が多く、やや高い評価となりました。古道の史跡については、相馬郡衙遺跡や将門神社など古代中世の史跡が多く存在したため、高い評価となりました。案内表示については、歴史に関するものはあったものの、古道に関するものが少なく、評価が低くなりました。印象に残ったものとして、日秀西遺跡と葦不合神社を挙げた人が多かったです。まちづくりの方向としては、史跡を結んだ散策コースなどが提案されています。全体を通じての評価点は3.29で、ほぼ平均的な評価となりました。



我孫子市新木／谷を挟んだ参道の葦不合神社



我孫子市布佐／農家の防風林と直線道路

### 【参加者の評価結果】

1◆全体を歩いた感想      評価点：3.29    内訳：ABBBBBB

A：交通量が多く歩きにくい部分もあったが、二つの水系に挟まれた半島状の台地を行く道で、葦不合神社をはじめとする見どころも多くとても楽しめた。

B：今回のコースは、手賀沼と利根川を避けつつ、我孫子の台地上の尾根筋を通っており、古代関連の史跡が意外に多かったのも、古代官道を想像できた。沿道の大きな旧家の生垣も見事だった。

B：宿場町や大きな農家住宅などの昔からの風景と新しい住宅地が成田線というローカル線沿線に交互に現れる感じを楽しんで歩けた。

B：昔の農家の雰囲気が残っていた。史跡・遺跡も多かった。駅前など、我孫子という町の良さを感じた、

B：相馬郡衙関連遺跡、道路遺構、天照神社など、古代官道に関わると思われる遺構があり、古くからの交通路であったことを感じさせる。

B：東我孫子を過ぎると、かなり田舎の風景になったが、手賀沼と利根川にはさまれた尾根部分を巧みに道が通っていたことがよくわかった。

B：細長い我孫子台地上を手賀沼を眺めながら快適に歩いた。日秀西遺跡、将門神社、葺不合神社など重要な史跡も多かった。しかし、幹線道路区間が多く、また、道筋の直線性はあまり感じられなかったのはやや残念だった。

## 2◆特に魅力的だったところ

○我孫子駅前通り：明るく広々して郊外の街にふさわしい快適さが感じられる。歩道に緑が多い工夫がなされ、好感が持てる。水戸街道との交差点付近は、大山街道・長津田にそっくりで驚いた。

○水戸街道我孫子宿：意外に古い建物がそこに残り、今も手入れされて住宅やお店などに使われている。

○水戸街道我孫子宿：本陣は残っていないが、旧家が点在し宿場町の風情をкаろうじて残している。

○子権現：今回は訪問しなかったが、道標が多く存在していることから、広く信仰を集めていたものと思う。

○東我孫子の一里塚：こんもりした塚が現存する。

○東我孫子の一里塚：しっかり塚として残っていた。

○東我孫子付近の防風林：白樺の防風林に囲まれた住宅が美しい。良く手入れされている。

○中峠周辺：大きな旧家が多く残されている。

○中里の庚申堂：地元「庚申会」の名前で今年の庚申の日が記載され、今もなお連綿と庚申信仰が続いている。

○中里の庚申塔：今年の庚申の日が記されていて、庚申会が開かれていることにびっくりした。そのコミュニティの豊かさをうらやましくも思う。

○北向薬師堂：薬師三尊と十二神将が鎮座する珍しいもの。

○北向薬師堂：冬枯れのケヤキと火の見鉄塔が寂寥とした雰囲気を出していた。

○日秀西遺跡（相馬郡衙関連遺跡）：今は何も無いが、千数百年前は地域の中心であったことがはっきりしている。歴史のロマンを感じる。

○日秀西遺跡：高校が遺跡になっているのは、神奈川県綾瀬市の宮久保遺跡と同じで珍しい。

○日秀西遺跡：この有名な（古代東海道のルート推定にとって極めて重要な）古代相馬郡衙跡をついに訪れることができて感激だった。しかし、案内板が立つものの現地には何も痕跡が無く、県立湖北高校になってしまっていたのには驚いた。

○将門神社と将門の井戸：各地に残る将門伝説の一端を知りえた。

○将門神社：手賀沼を見下ろし、下総台地を一望にできる丘の上に鎮座したこの神社は、関東における将門信仰の厚みを実感させる。

○鎌倉古道：緑陰の快適な古道。

○鎌倉古道：味わいのある道である。古代官道との関係は明らかではないが、是非、歩いてみたい。



我孫子市本町／旧水戸街道我孫子宿



我孫子市東我孫子／旧水戸街道一里塚



○葦不合（ふきあえず）神社：本殿の彫刻が精巧で素晴らしい。

○葦不合神社：精巧な彫刻が施された本殿と神々しい空間が素晴らしかった。

○葦不合神社：この彫り物と雰囲気にはびっくりです。

○葦不合神社：本殿の立派な彫刻を間近に見ることが出来た。境内はひっそりしているが、多くの神様もまつられており、不思議な空間だった。

○葦不合神社：長い参道が谷を渡っていて珍しい。また、奥のお堂の中の彫刻が非常に立派だった。

○葦不合神社：旧道に沿った鳥居と丘の上の拝殿・本殿との間に谷が入り、間が低くなっている。谷を挟んで対峙する丘の両側を一直線の参道が結んでおり、立体的かつダイナミックな景観が感動的。

○布佐の利根川：台地から坂を下ったら平野を介さずにすぐに利根川に至って驚いた。利根川の川幅も狭くて驚いた。いずれも、ここが自然河川でなく、江戸時代になって開削されたことを物語っている。

○布佐の利根川：利根川にしては確かに幅が狭いと感じた。

○成田線布佐駅：駅前に大高層住宅団地がそびえ、構内はバリアフリー化され、新型電車10両編成の上野直通快速が走行するにもかかわらず、単線で30分に一本しか電車がいないのは、とても違和感があった。

### 3◆古代官道らしさ（直達性、短絡性、古代史跡等） 評価点：3.29 内訳：ABBBBBB

A：常陸国府の方角へ真っ直ぐ向かっているかどうかはともかく、細い尾根状の部分の直線的にうまく抜けていたと思う。

B：手賀沼と利根川を避けつつ、我孫子の台地上の尾根筋を通っているという実感があつた。高野山1号墳石室、天照神社、相馬郡衙跡、将門神社、将門の井戸、葦不合（ふきあえず）神社など古代史跡が豊富だった。また、岡発戸（おかほつと）、都部（いちぶ）、中峠（なかびょう）、「日秀」「ひびり」、「新木」「あらき」など難しい地名に古代からの歴史を感じた。

B：利根川と手賀沼に挟まれた台地上の道で直達性も感じられた。

B：基本的には直線的であった。相馬郡衙の全体像が明らかになると、駅や官道の位置ももっとはつきりすると思う。発掘が期待される。

B：台地上のほぼまっすぐな道は確かにそういう感じはする。ただし、常陸への方向が最短ではない点が気になる。

B：マクロには細長い我孫子台地上を一路東へ進んでいる。北に利根川、南に手賀沼の低地を見やり、尾根道が実感できた。古代相馬郡衙と推定される日秀西遺跡や、手賀沼を見下ろす将門神社なども、古道にふさわしい。ただ、今回選んだ道筋からは直線性は実感しにくかった。

B：直達性等はあまり感じられなかったが、相馬群衙関連遺跡や高野山一号墳石室など古代史跡は十分にあった。しかし、歩いた道が古代官道だったと実感するのは難しい。



我孫子市日秀／旧手賀沼を見下ろす将門神社



我孫子市布佐／沿道に並ぶ旧家の佇まい

### 4◆沿道風景の魅力 評価点：3.86 内訳：AAABBBB

A：歩いた国道沿道にはとてもたくさんの立派な農家があり、そのたたずまいともども、びっくりしました。

A：官道との関わりはないが、生け垣が立派に整備されている農家が多く、景観も良かった。

A：葦不合神社の参道が一旦下ってから拝殿に向かって再び登るのが素晴らしい。境内も「神が降臨する場」の雰囲気を持っていた。

B：出発前のけやきプラザ展望室からの眺めで、広大な関東平野と利根川や手賀沼の地勢を一望にできた。水戸街道の旧家や立派な生垣が沿道に並んでいた。手賀沼を見下ろす崖上の将門神社や、谷を挟んで参道が向かい合う葦不合神社なども風情があった。

B：将門神社付近から見た手賀沼の眺め、緑陰のかまくら道、沿道の大きな旧家の生垣、葦不合神社の荘重な森などが魅力的だった。

B：将門神社の先から見た手賀川（手賀沼の下流を干拓して残った川）の風景が印象的であった。昔はあの田圃が、一面沼だったのでしょう。

B：古い建物が活用されていた我孫子宿、東我孫子、湖北付近の防風林に囲まれた住宅などが魅力的であった。しかし、我孫子宿の後ろにそびえ立つマンション開発は景観形成の反面教師の事例になっていると思う。

#### 5◆古道にふさわしい史跡 評価点：4.14 内訳：AAAABBBB

A：細い尾根づたいに数多くの史跡が並んでいた。江戸時代の旧我孫子宿や一里塚だけでなく、将門神社、葦不合神社、鎌倉道伝承など、中世以前の古道らしさを感じさせる史跡が多い。中でも、古代相馬郡衙跡とされる日秀西遺跡（県立湖北高校）は注目される。

A：相馬群衙関連遺跡跡や高野山一号墳石室、将門神社など古道が近くを通っていたことの証左は十分にあったと思う。

A：一里塚、庚申塔、郡衙の遺跡、将門関係の遺跡などかなりいろいろあった。

A：相馬郡衙関連遺跡は、この地に古道があったことの証左だと思う。

B：庚申塔や一里塚などはそれなりにあった。相馬郡衙遺跡などは、貴重。

B：高野山1号墳石室、天照神社、相馬郡衙跡、将門神社、将門の井戸、葦不合神社など古代史跡が豊富だった。

B：葦不合神社は素晴らしかった。

#### 6◆古道や歴史の案内表示 評価点：2.71 内訳：BBBBBBBC

B：我孫子本陣跡や神社には案内板があった。

B：相馬郡衙跡、かまくら道など、そこそこあった。難解な地名には読み仮名が欲しかった。葦不合神社の案内板は、詳しくて要点をつかみかねた。

B：相馬郡衙関連遺跡、将門神社付近の案内が充実していた。案内表示を誰が管理しているのかわかると良い。

B：相馬郡衙関連遺跡や高野山古墳などの案内はあった。古代官道についてはなかった。

B：史跡に関する解説板などはあったが、古代道に関するものは見られなかった

B：部分的にはあったが、全体を関係づけたものはなかった。

C：日秀西遺跡の案内板が良かった。その先の鎌倉古道の案内板は、立て方を間違っていて向きがおかしかった。



我孫子市日秀／相馬郡衙関連遺跡の解説



我孫子市新木／鎌倉道の伝承がある古道



## 7◆古道を活用したまちづくり

- 我孫子市には本陣周辺以外にも旧家が多く、また葦不合神社があり、魅力的なまちづくりに活用できると思う。
- 我孫子市は、北に利根川、南に手賀沼を見下ろす風光明媚な台地の街なので、ぜひこれを広く知らせ、活かしたいもの。具体的には、細長い尾根に沿って、水戸街道の町並みや沿道の史跡、高台からの眺望などを楽しむ散策ルートを創り、自然地形や歴史文化の生涯学習に役立てれば面白いと思う。
- 古代遺跡が結構あることから、これらを結ぶルートを想定古道としてアピールし、まち歩きルートを整備すると良いと思う。
- 手賀沼周辺は歩行コースが設定されているようだが、今回のコースにも史跡が多く、また古い農家の雰囲気も良いので、これらを結んだ歩行コースも設定して宣伝したらよいと思う。
- 鎌倉古道を伝える活動はあるようだが、看板の位置や説明が中途半端でもったいない。
- 日秀付近に古道散策コースのようなものがあつた。もう少し充実できるのではないかな。

## 8◆その他、今回の企画や気づいた点など

- 私のとってなじみのない成田線というローカル線沿線の風景を楽しめた。台地上の古道歩きのため、手賀沼がほとんど見えず少し残念。崖線に近い将門神社下では旧手賀沼が水田地帯（地名も上、中、下沼田）になっていることを知らされびっくりした。（M. F）
- 我孫子市が東西に長いことを初めて知った。中峠（なかびょう）、日秀（ひびり）、葦不合（ふきあえず）など難しい地名が出てきたことが印象的だった。次回はいよいよ常陸国ですね。（T. K）
- 我孫子はアクセスが悪いというイメージがあつたが、葦不合神社をはじめ見どころが多く、驚きました。（S. K）
- いやあ、現地に行ってみて初めてわかることって随分あるんですね！ 我孫子が手賀沼を見下ろす南斜面の風光明媚な別荘住宅地だったことや、有名な日秀西遺跡（古代相馬郡衙推定地）がなんと県立湖北高校だったこと、布佐の利根川の川幅がとても狭いこと、沿線に住宅地開発が進み10両編成の上野直通快速が走る成田線が単線で30分に一本しか来ないこと・・・新鮮な発見がたくさんありました！ 次回は利根川を渡り、さらにディープなエリアへ踏み入るのですね！ 楽しみです！（R. O）
- 手賀沼に近づけなかったこと、湖北ニュータウンを見られなかったことがやや残念でした。それと、前半でもう少しスピードアップの必要があつた。（I. T）
- 毎回ちょうどいい距離が設定されていると感じました。頂く資料もありがとうございます。（J. N）

**主催者より◆**相馬郡衙関連遺跡があることから、官道との関係を示す道路であることは解ると思います。葦不合神社や由緒ありそうな難読地名の存在もこの地の古代について様々な想像ができると思います。歩いてみると、季節と歴史を感じることが出来ます。今回は途中の休憩場所がなく、少々大変でした。次回はいよいよ利根川を渡り常陸国に入ります。布川そのものは近世まで下総国相馬郡で豊嶋氏の居城もありました。布川は柳田国男が少年期を過ごした町でもあります。次回のゴールの龍ヶ崎は伊達藩領です。さまざまな歴史と季節に触れあうことが出来ます。お楽しみに。（梶川義実）



布佐・栄橋付近の利根川堤防に到達して



我孫子市中里／北向薬師堂と火の見塔